

平成 29 年 7-9 月期中小企業景気動向調査結果

業況 DI は 2.1 ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の平成 29 年 7-9 月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：平成 29 年 8 月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業 2,000 社
- ・回答数（率）：1,011 社（50.6%） ＊詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象への郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）＊による分析

※ 業況等について、「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	348	63.3%
建設業	250	127	50.8%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	536	44.7%
合計	2,000	1,011	50.6%

2. 調査結果

（1）総合

	平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	▲26.6	▲26.5	▲22.4	▲20.3	▲21.8	▲24.3
売上 DI	▲17.1	▲23.1	▲19.7	▲15.6	—	—
採算 DI	▲22.0	▲25.6	▲23.0	▲21.2	—	—

総合の業況 DI は、前期比 2.1 ポイント上昇の▲20.3 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 4.1 ポイント上昇の▲15.6、また、採算 DI は同 1.8 ポイント上昇の▲21.2 となった。

今後の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 1.5 ポイント低下の▲21.8、半年後は同 4.0 ポイント低下の▲24.3 を見込んでいる。

(2) 業種別特徴

<製造業>

	平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	▲12.4	▲11.4	▲8.3	▲6.9	▲3.8	▲7.6
売上 DI	▲6.6	▲14.3	▲6.3	3.2	—	—
採算 DI	▲11.2	▲16.6	▲12.0	▲6.3	—	—

製造業の今期の業況 DI は、前期比 1.4 ポイント上昇の▲6.9 となった。「3 月から 5 月は本当に不調でした。今は多少仕事量は回復し、このまま良い方に向かえばと期待したい。」「景気は右肩上がりと感じているが、人材が不足している。ただ、この景気が続くかは不透明。」などという声も聞かれた。

経営状況では、売上 DI は、前期比 9.5 ポイント上昇の 3.2、採算 DI は同 5.7 ポイント上昇の▲6.3 となり「現在、客先からの受注物件、計画案件に対する希望納期が逼迫気味である。社を挙げて対応しているが、来年上期まで、この状況は続く可能性がある。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 3.1 ポイント上昇の▲3.8、半年後は同 0.7 ポイント低下の▲7.6 を見込んでおり、「国内での生産量が減少したまま固定化した感がある。先の見通しは不明であるが、堅実な経営が重要だと考える。」「一年前の同時期との比較で売上・利益ともかなり減少しています。7 月から 9 月期は繁忙期のはずですが、例年と比べても盛り上がりに欠ける状況で、今後の受注動向を注視しています。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況 DI は以下の通り。

	平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
一般機械	▲9.5	▲2.4	▲1.2	3.6	7.2	2.4
電気機械	▲9.1	▲9.5	▲16.0	▲16.7	▲11.5	▲20.5
輸送用機械	▲11.7	▲12.3	▲4.5	▲1.7	▲3.6	▲10.7
その他	▲16.7	▲18.1	▲10.2	▲10.2	▲6.3	▲4.7

中分類で見ると、一般機械は前期比 4.8 ポイント上昇の 3.6、電気機械は同 0.7 ポイント低下の▲16.7、輸送用機械は同 2.8 ポイント上昇の▲1.7 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は一般機械が現在比 3.6 ポイント上昇の 7.2、電気機械が同 5.2 ポイント上昇の▲11.5、輸送用機械が同 1.9 ポイント低下の▲3.6、半年後は一般機械が同 1.2 ポイント低下の 2.4、電気機械が 3.8 ポイント低下の▲20.5、輸送用機械は同 9.0 ポイント低下の▲10.7 を見込んでいる。

<建設業>

	平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	▲2.2	▲3.5	▲13.0	0.0	▲7.3	▲13.7
売上 DI	▲5.1	▲0.7	▲34.6	▲17.3	—	—
採算 DI	▲17.0	▲9.2	▲27.7	▲15.1	—	—

建設業の今期の業況 DI は、前期比 13.0 ポイント上昇の 0.0 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 17.3 ポイント上昇の▲17.3、採算 DI は同 12.6 ポイント上昇の▲15.1 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 7.3 ポイント低下の▲7.3、半年後は同 13.7 ポイント低下の▲13.7 となり、業況は悪化すると見込んでいる。「設備投資や改修工事等が昨年で山を越し、今年度は下降気味である。来春からは多少見えているが、間の空き過ぎが心配だ。」「人が足りない、若い人が集まらない。人が居ればもっと売上が増加する。」といった声も聞かれた。

＜商業・サービス業＞

	平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
業況 DI	▲42.6	▲43.2	▲34.0	▲33.8	▲37.1	▲37.7
売上 DI	▲27.3	▲35.7	▲24.8	▲27.3	—	—
採算 DI	▲30.6	▲36.4	▲29.0	▲32.3	—	—

商業・サービス業の業況 DI では、前期比 0.2 ポイント上昇の▲33.8 となった。

経営状況では、売上 DI が前期比 2.5 ポイント低下の▲27.3、採算 DI は同 3.3 ポイント低下の▲32.3 となった。「昨年開店した店舗は、6 ヶ月早く目標とする売上を順調に確保している。仕事の量が増加し、人手不足が心配です。」「取引先が好調であった為、4 月～6 月は良かった。しかし今後は取引先が不調になる見通しである。」などの他、「仕事は増やせるが、人手が無い。募集しても人材が集まらない。特に若い人が。人が辞めた場合は仕事を減らすしかないと思う。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 3.3 ポイント低下の▲37.1、半年後は同 3.9 ポイント低下の▲37.7 を見込んでいる。「地域店の顧客は高齢者が大部分。新しい物や人気商品に反応しない。見通し真っ暗。行動としては若い老人（60～70 代）の確保に努力。」「国内小売はネット通販の隆盛で次第にシェアを奪われていくでしょう。中小企業はニッチ分野で生き延びるしかないのでしょうか。」といった声が聞かれる一方「今が普通であり今後、多少の好・不調はあるとしても大きく変わるということは考えられない。今日を、しっかりやれば明日も来るだろうと…。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の業種別の業況 DI は以下の通り。

	平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
卸売業	▲31.6	▲37.5	▲24.2	▲26.5	▲30.0	▲27.0
小売業	▲57.7	▲56.2	▲50.0	▲51.4	▲54.6	▲53.7
飲食店	▲40.3	▲46.7	▲31.3	▲29.7	▲31.5	▲32.4
サービス業	▲27.3	▲25.2	▲17.1	▲13.1	▲17.2	▲23.0

業種別では、卸売業は前期比 2.3 ポイント低下の▲26.5、小売業は同 1.4 ポイント低下の▲51.4、飲食店は同 1.6 ポイント上昇の▲29.7、サービス業は同 4.0 ポイント上昇の▲13.1 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は卸売業が現在比 3.5 ポイント低下の▲30.0、小売業は同 3.2 ポイント低下の▲54.6、飲食店は同 1.8 ポイント低下の▲31.5、サービス業は同 4.1 ポイント低下の▲17.2 を見込み、半年後では卸売業が同 0.5 ポイント低下の▲27.0、小売業は同 2.3 ポイント低下の▲53.7、飲食店は同 2.7 ポイント低下の▲32.4、サービス業は同 9.9 ポイント低下の▲23.0 と、全業種で悪化を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
		10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
中規模	業況 DI	▲21.9	▲21.6	▲13.2	▲13.8	▲15.9	▲17.5
	売上 DI	▲15.6	▲17.8	▲11.6	▲8.7	—	—
	採算 DI	▲20.2	▲21.5	▲15.9	▲17.9	—	—
小規模	業況 DI	▲32.9	▲32.6	▲33.4	▲28.4	▲29.3	▲33.0
	売上 DI	▲19.0	▲29.4	▲29.4	▲24.2	—	—
	採算 DI	▲24.2	▲30.5	▲31.3	▲25.3	—	—

規模別の業況 DI は、中規模企業は前期比 0.6 ポイント低下の▲13.8、小規模企業は同 5.0 ポイント上昇の▲28.4 となった。

経営状況では、中規模企業は売上 DI が前期比 2.9 ポイント上昇の▲8.7、採算 DI が同 2.0 ポイント低下の▲17.9、小規模企業は売上 DI が 5.2 ポイント上昇の▲24.2、採算 DI が同 6.0 ポイント上昇の▲25.3 となった。

今後の業況 DI については、中規模企業は 3 ヶ月後が現在比 2.1 ポイント低下の▲15.9、半年後が同 3.7 ポイント低下の▲17.5、小規模企業は 3 ヶ月後が同 0.9 ポイント低下の▲29.3、半年後は同 4.6 ポイント低下の▲33.0 を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況 DI）

	平成 28 年	平成 29 年				平成 30 年
	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期 見込	1-3 月期 見込
横浜	▲25.8	▲23.1	▲17.6	▲16.1	▲20.8	▲23.5
川崎	▲23.1	▲23.7	▲27.2	▲27.9	▲21.8	▲22.4
横須賀	▲28.6	▲29.5	▲25.7	▲18.8	▲24.5	▲26.4
平塚	▲34.0	▲26.2	▲21.6	▲24.2	▲18.4	▲18.4
藤沢	▲24.0	▲35.0	▲21.0	▲22.9	▲27.4	▲28.4
相模原	▲28.2	▲29.3	▲18.4	▲12.7	▲18.5	▲25.0
厚木	▲20.6	▲12.7	▲15.0	▲10.9	▲10.9	▲14.5
足柄上・西湘	▲30.3	▲40.6	▲39.8	▲35.1	▲35.4	▲38.9

今期の地区別の業況 DI は、横浜地区（前期比 1.5 ポイント上昇の▲16.1）、横須賀地区（同 6.9 ポイント上昇の▲18.8）、相模原地区（同 5.7 ポイント上昇の▲12.7）、厚木地区（同 4.1 ポイント上昇▲10.9）、足柄上・西湘地区（同 4.7 ポイント上昇の▲35.1）の 5 地区で上昇となり、川崎地区（前期比 0.7 ポイント低下の▲27.9）、平塚地区（同 2.6 ポイント低下の▲24.2）、藤沢地区（同 1.9 ポイント低下の▲22.9）の 3 地区で低下となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は川崎地区（現在比 6.1 ポイント上昇の▲21.8）、平塚地区（同 5.8 ポイント上昇の▲18.4）の 2 地区で上昇となり、厚木地区（同±0.0 ポイントの▲10.9）は現在値と同じとなり、横浜地区（現在比 4.7 ポイント低下の▲20.8）、横須賀地区（同 5.7 ポイント低下の▲24.5）、藤沢地区（同 4.5 ポイント低下の▲27.4）、相模原地区（同 5.8 ポイント低下の▲18.5）、足柄上・西湘地区（同 0.3 ポイント低下の▲35.4）の 5 地区で低下となった。

半年後は、川崎地区（現在比 5.5 ポイント上昇の▲22.4）、平塚地区（同 5.8 ポイント上昇の▲18.4）、の 2 地区で上昇となり、横浜地区（現在比 7.4 ポイント低下の▲23.5）、横須賀地区（同 7.6 ポイント低下の▲26.4）、藤沢地区（同 5.5 ポイント低下の▲28.4）、相模原地区（同 12.3 ポイント低下の▲25.0）、厚木地区（同 3.6 ポイント低下の▲14.5）、足柄上・西湘地区（同 3.8 ポイント低下の▲38.9）の 6 地区は低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先
 （公財）神奈川産業振興センター（KIP）
 （Kanagawa Industrial Promotion Center）
 事業部経営総合相談課 小野田
 TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194
 URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (平成29年7月～9月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		348	127	104	220	75	137	536	1011
業況判断	現在の業況	-6.9	0.0	-26.5	-51.4	-29.7	-13.1	-33.8	-20.3
	3ヶ月後の業況	-3.8	-7.3	-30.0	-54.6	-31.5	-17.2	-37.1	-21.8
	半年後の業況	-7.6	-13.7	-27.0	-53.7	-32.4	-23.0	-37.7	-24.3
経営状況	売上	3.2	-17.3	-24.0	-40.9	-23.0	-10.2	-27.3	-15.6
	採算	-6.3	-15.1	-22.1	-43.2	-33.3	-22.1	-32.3	-21.2
	引き合い／客数	4.1	-5.6	-10.6	-45.7	-22.7	-11.0	-26.8	-13.5
	単価	-11.9	-5.6	-19.2	-41.9	-21.3	-24.3	-30.1	-20.7
	仕入価格	-39.6	-33.9	-44.2	-34.7	-62.7	-25.6	-38.4	-38.2
	資金繰り	-8.3	-11.2	-22.1	-36.6	-25.3	-20.6	-28.1	-19.1
	残業	-1.4	-11.9	-15.7	-14.6	-13.7	-8.9	-13.2	-8.9
	設備稼働	0.9	-8.1	-	-	-	-	-	-1.5
前期経営実績	売上水準	0.6	-5.6	1.9	-35.5	-5.3	-2.9	-15.7	-8.8
	利益水準	12.7	3.1	9.0	1.4	-1.3	-8.0	0.2	4.9
	在庫	5.3	-0.9	-11.1	-19.8	-5.3	-5.5	-12.5	-5.0
	投資	-4.1	-6.7	-22.8	-13.1	-42.7	-35.9	-25.0	-15.4
	雇用状況	-17.6	-41.1	-21.4	-46.4	-17.3	-6.6	-27.3	-25.6

(注)DI(Diffusion Index) : 各項目ごとのプラス要素の比率からマイナス要素の比率を差し引いた数値

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (平成29年4月～6月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		351	131	99	225	67	147	538	1020
業況判断	現在の業況	-8.3	-13.0	-24.2	-50.0	-31.3	-17.1	-34.0	-22.4
	3ヶ月後の業況	-11.8	-17.7	-27.6	-48.6	-32.8	-21.0	-35.3	-24.9
	半年後の業況	-10.7	-22.0	-22.4	-48.6	-25.4	-17.6	-32.4	-23.6
経営状況	売上	-6.3	-34.6	-8.1	-39.7	-17.9	-16.4	-24.8	-19.7
	採算	-12.0	-27.7	-18.2	-36.6	-28.8	-24.7	-29.0	-23.0
	引き合い／客数	1.7	-19.1	-14.1	-35.4	-26.2	-20.8	-26.4	-15.7
	単価	-11.0	-9.9	-9.1	-38.6	-18.5	-12.7	-23.6	-17.5
	仕入価格	-44.6	-34.6	-40.4	-41.2	-61.2	-25.2	-39.5	-40.6
	資金繰り	-9.7	-5.4	-14.1	-36.0	-33.3	-14.6	-25.8	-17.6
	残業	-6.3	-19.1	-13.1	-11.6	-14.1	-12.5	-12.4	-11.2
	設備稼働	-2.0	-20.0	-	-	-	-	-	-6.7
前期経営実績	売上水準	0.6	2.3	1.0	-34.1	-9.1	-4.8	-16.4	-8.1
	利益水準	17.7	14.7	12.5	0.9	1.6	-2.3	2.3	9.4
	在庫	2.0	-0.9	-3.1	-21.2	-15.6	-7.4	-13.5	-6.5
	投資	-0.3	-7.3	-23.7	-11.2	-35.4	-35.3	-23.0	-13.0
	雇用状況	-16.9	-35.7	-18.2	-48.2	-24.2	-17.8	-31.3	-26.9

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		191	157	56	71	318	218	565	446
業況判断	現在の業況	-3.1	-11.5	12.5	-10.0	-24.9	-46.8	-13.8	-28.4
	3ヶ月後の業況	1.0	-9.8	-3.6	-10.3	-28.6	-49.5	-15.9	-29.3
	半年後の業況	-1.1	-15.7	-8.9	-17.6	-29.1	-50.5	-17.5	-33.0
経営状況	売上	6.3	-0.6	0.0	-31.0	-19.2	-39.0	-8.7	-24.2
	採算	-3.7	-9.6	-7.3	-21.1	-28.4	-38.1	-17.9	-25.3
	引き合い／客数	8.9	-1.9	9.3	-16.9	-16.1	-42.2	-5.2	-24.1
	単価	-6.3	-18.7	-7.3	-4.2	-25.1	-37.3	-17.0	-25.5
	仕入価格	-36.8	-42.9	-30.2	-36.6	-37.9	-39.0	-36.8	-40.0
	資金繰り	-2.1	-15.9	-9.1	-12.9	-25.1	-32.4	-15.7	-23.5
	残業	6.3	-10.8	-9.1	-14.1	-13.1	-13.5	-6.1	-12.6
	設備稼働	9.6	-9.6	-3.7	-11.6	—	—	6.6	-10.2
前期経営実績	売上水準	10.5	-11.5	-1.8	-8.5	-3.5	-33.5	1.4	-21.8
	利益水準	20.4	3.2	12.5	-4.2	4.2	-5.6	10.7	-2.3
	在庫	10.2	-0.7	0.0	-1.6	-7.2	-20.2	-0.6	-10.5
	投資	1.6	-11.0	1.9	-13.4	-30.5	-16.7	-16.4	-14.2
	雇用状況	-18.3	-16.7	-43.6	-39.1	-16.4	-43.1	-19.7	-33.2

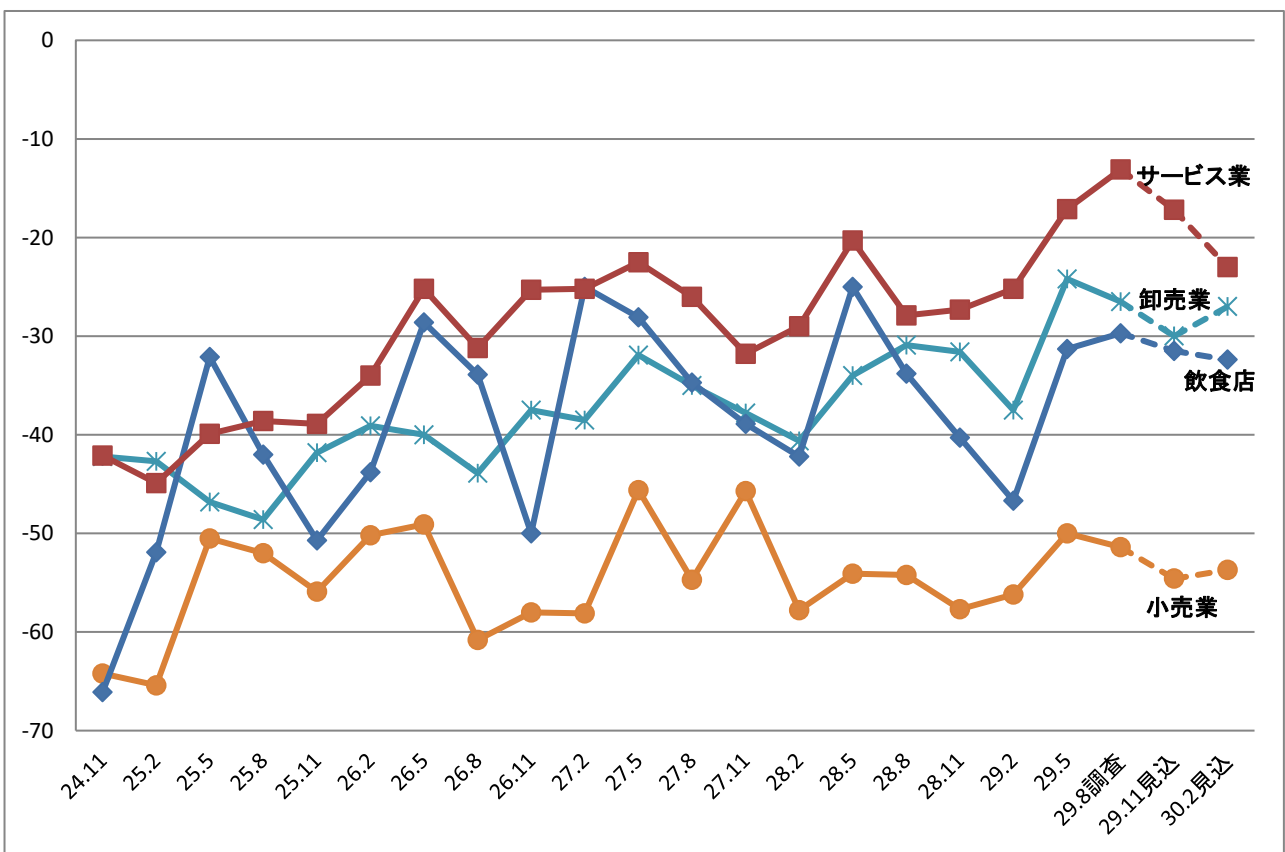
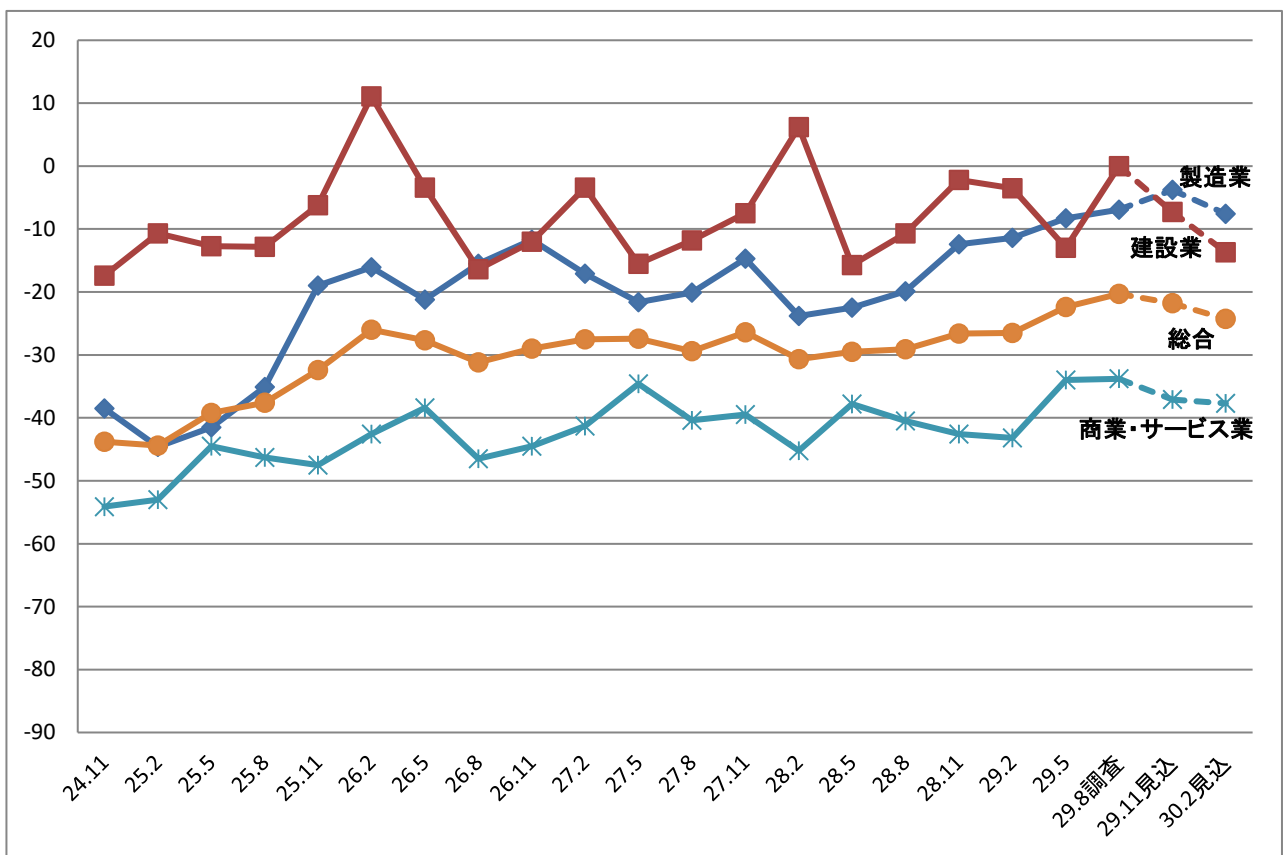
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		254	130	112	100	97	110	110	98	1011
業況判断	現在の業況	-16.1	-27.9	-18.8	-24.2	-22.9	-12.7	-10.9	-35.1	-20.3
	3ヶ月後の業況	-20.8	-21.8	-24.5	-18.4	-27.4	-18.5	-10.9	-35.4	-21.8
	半年後の業況	-23.5	-22.4	-26.4	-18.4	-28.4	-25.0	-14.5	-38.9	-24.3
経営状況	売上	-9.8	-20.2	-22.3	-13.0	-25.8	-11.8	-7.3	-22.4	-15.6
	採算	-12.6	-28.5	-29.7	-19.0	-22.7	-20.0	-15.5	-32.7	-21.2
	引き合い／客数	-9.8	-20.3	-17.3	-11.0	-16.5	-4.6	-3.7	-30.9	-13.5
	単価	-18.6	-21.7	-25.7	-14.0	-27.8	-15.5	-20.2	-26.0	-20.7
	仕入価格	-38.2	-39.8	-39.1	-33.3	-35.8	-39.8	-35.5	-43.8	-38.2
	資金繰り	-13.8	-21.9	-25.2	-14.3	-21.6	-24.5	-14.7	-23.7	-19.1
	残業	-8.8	-15.4	-13.8	-5.2	-8.3	-3.7	-1.8	-13.5	-8.9
	設備稼働	4.4	0.0	-12.2	-8.7	2.2	5.2	0.0	-19.4	-1.5
前期経営実績	売上水準	-9.5	-12.4	-6.3	-9.0	-9.3	-10.0	-1.8	-11.2	-8.8
	利益水準	4.5	-1.6	13.6	4.0	4.2	5.5	16.4	-7.3	4.9
	在庫	-2.5	-4.8	-2.8	-6.4	-13.8	-5.6	-3.7	-4.2	-5.0
	投資	-17.0	-17.5	-11.5	-17.5	-8.4	-11.0	-15.5	-22.7	-15.4
	雇用状況	-21.8	-27.7	-34.5	-22.0	-27.1	-24.5	-28.2	-23.5	-25.6

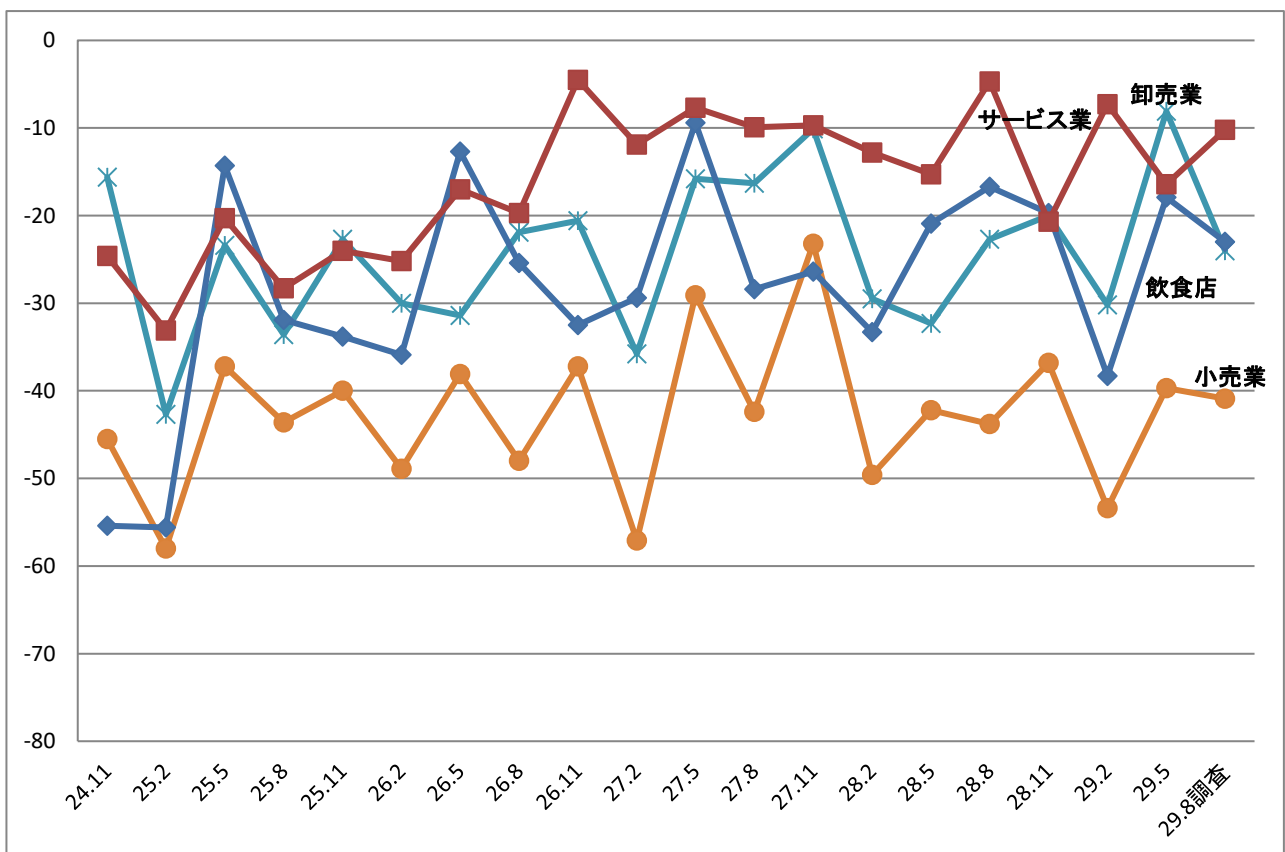
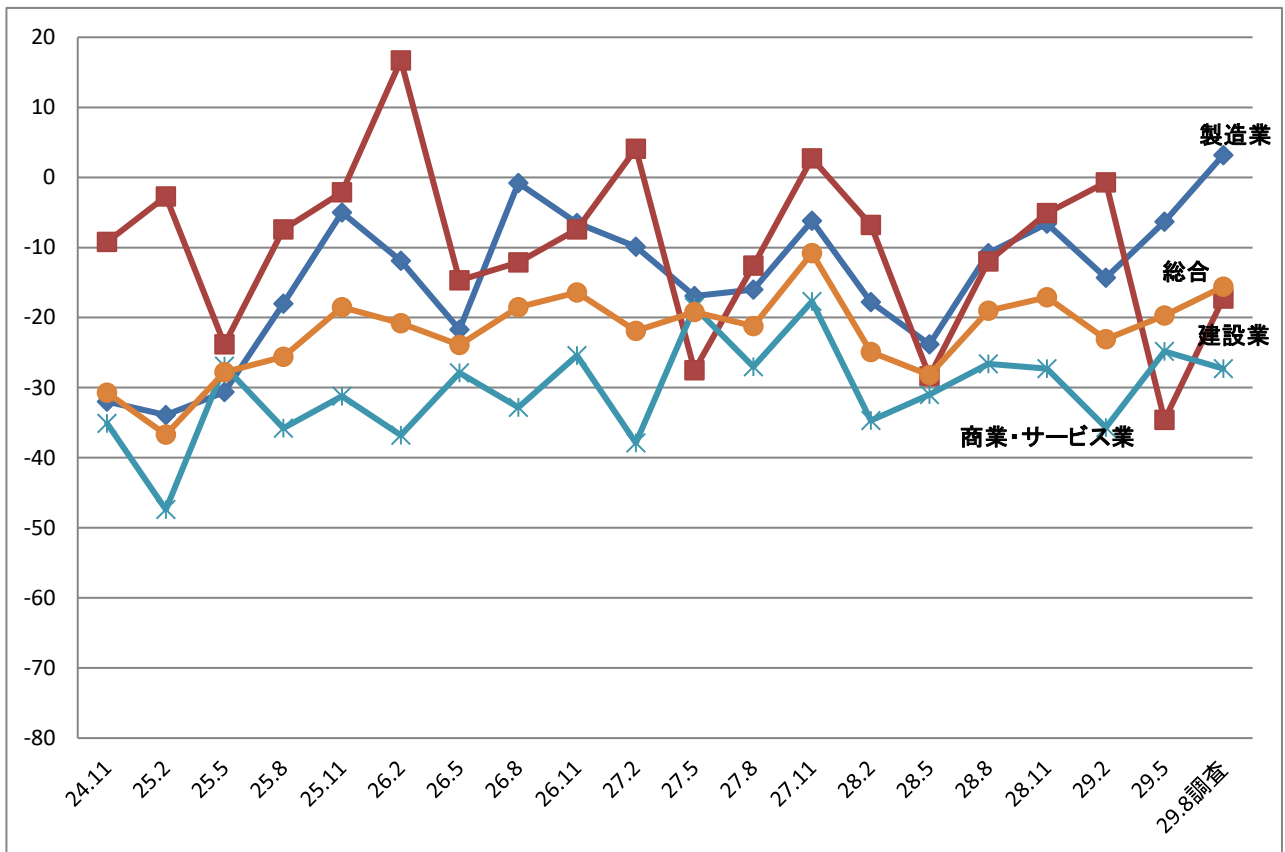
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		83	78	59	128	348
業況判断	現在の業況	3.6	-16.7	-1.7	-10.2	-6.9
	3ヶ月後の業況	7.2	-11.5	-3.6	-6.3	-3.8
	半年後の業況	2.4	-20.5	-10.7	-4.7	-7.6
経営状況	売上	9.6	-3.8	6.8	1.6	3.2
	採算	-1.2	-16.7	-1.7	-5.5	-6.3
	引き合い／客数	16.9	-3.9	-15.5	9.4	4.1
	単価	-12.2	-14.1	-10.5	-10.9	-11.9
	仕入価格	-33.7	-41.0	-46.6	-39.4	-39.6
	資金繰り	-12.0	-10.3	-10.2	-3.9	-8.3
	残業	7.2	-1.3	-6.8	-4.7	-1.4
	設備稼働	7.2	-6.4	0.0	1.6	0.9
前期経営実績	売上水準	6.0	-6.4	8.5	-2.4	0.6
	利益水準	20.5	10.3	15.3	7.9	12.7
	在庫	0.0	7.9	1.8	8.7	5.3
	投資	-1.2	-10.3	-7.0	-0.8	-4.1
	雇用状況	-24.1	-20.5	-20.3	-10.2	-17.6

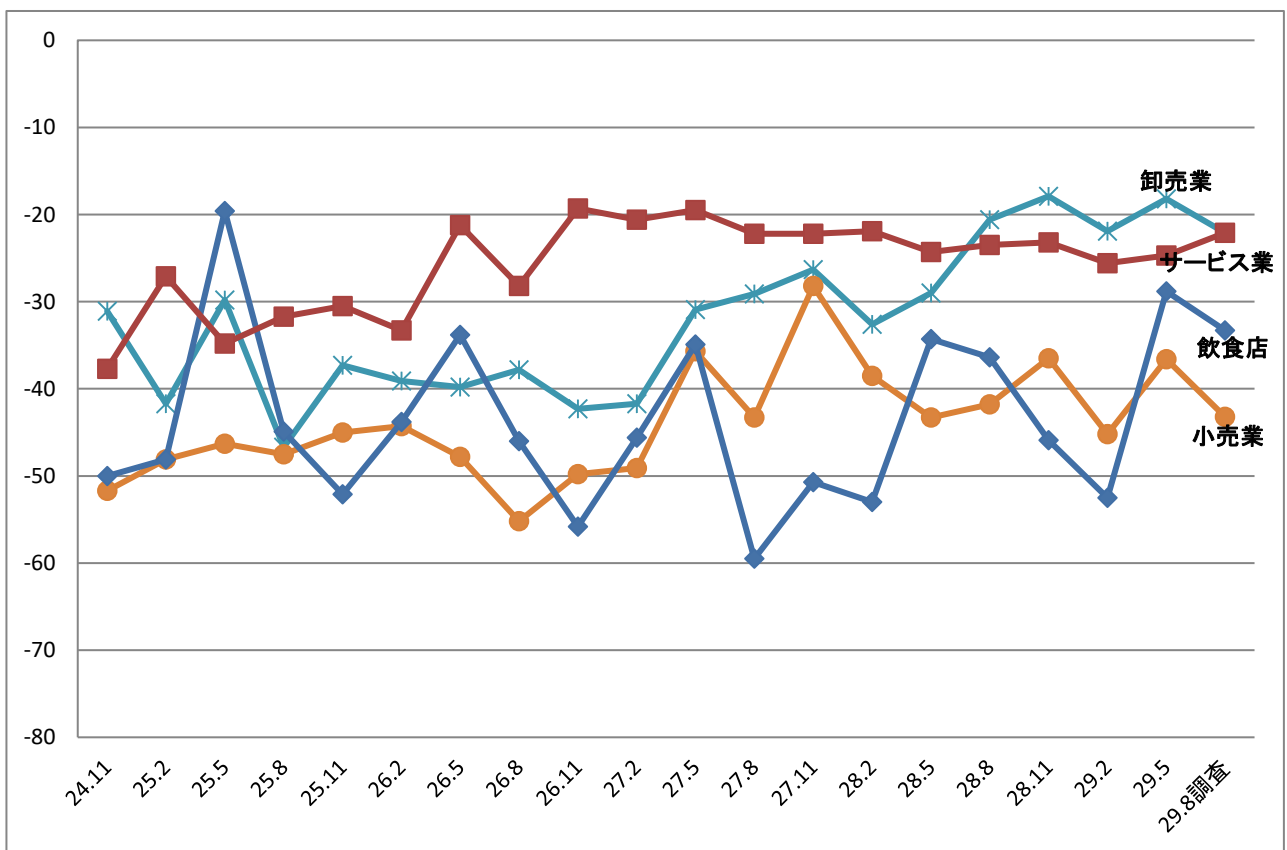
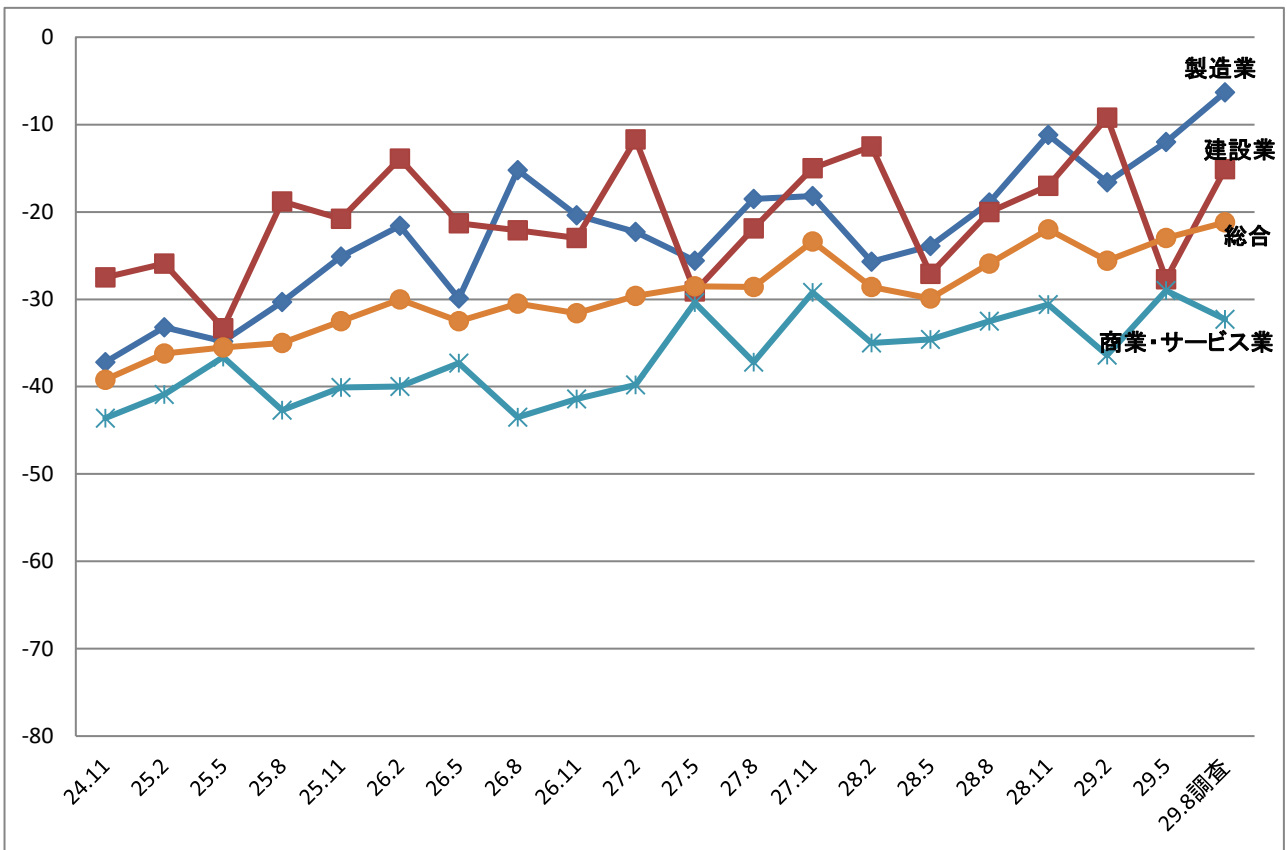
業況DIの推移



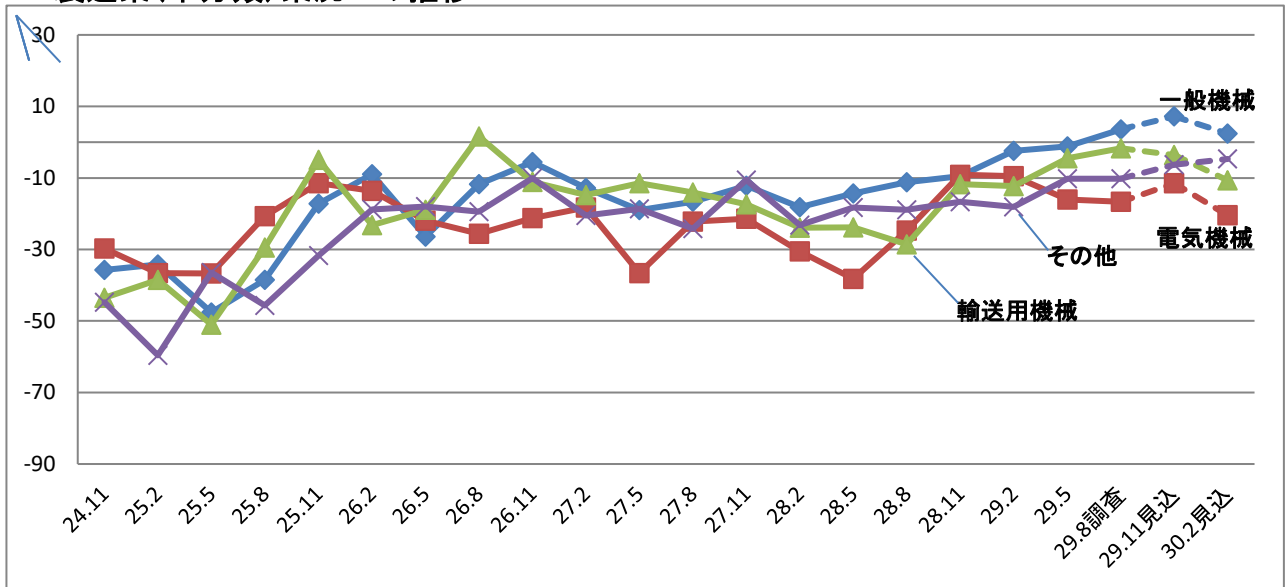
売上DIの推移



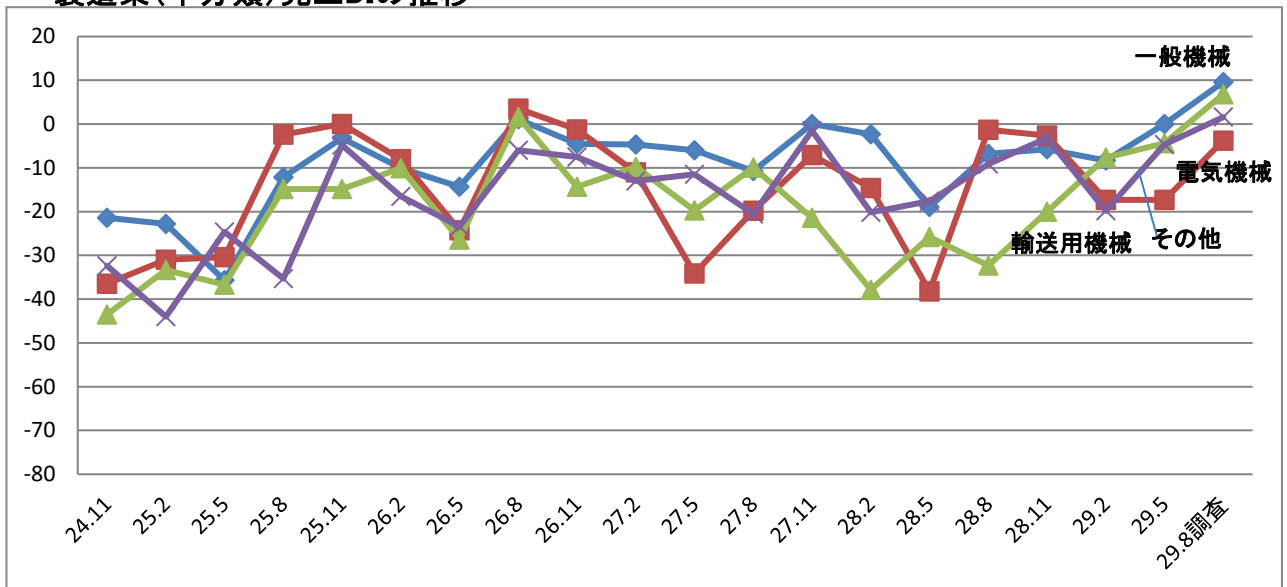
採算DIの推移



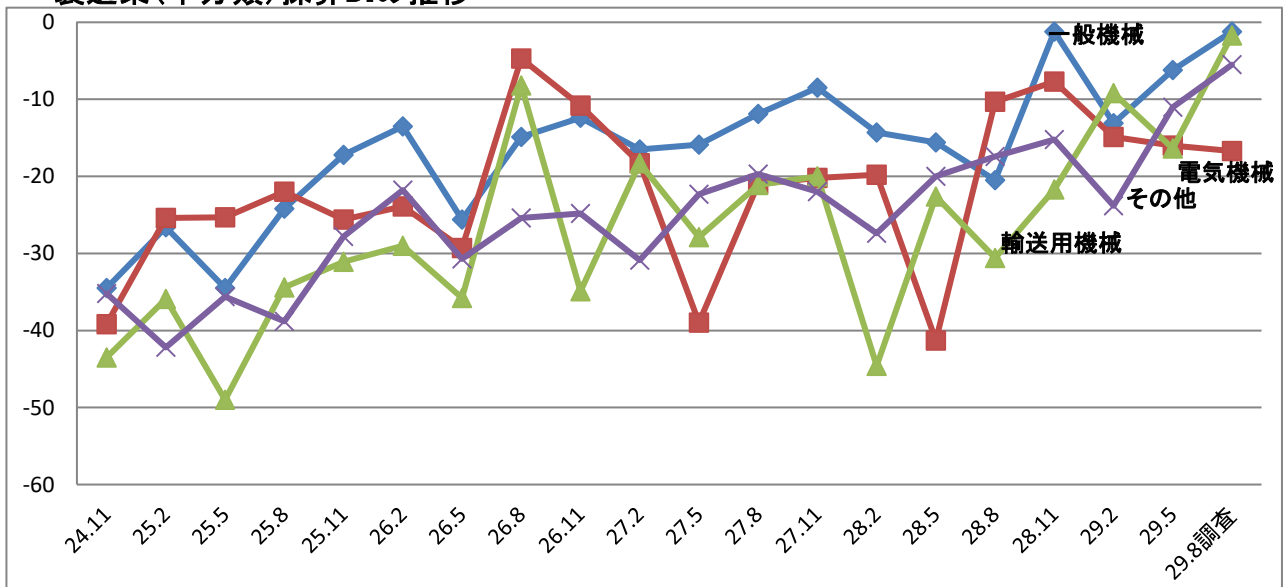
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント（一部）

<製造業>

例年、上期はあまり良くないが今年は全体に良くない。しかし新規引き合いは増えている為、下期からの安定受注を目指す。
前期、客先の売上げ激増により、利益が黒字化した。今後、客先の新規拡充を図り、より健全な経営の安定化を確立していきたいです。
求人しても人が集まらず、高齢化が進む中で、事業(技術)の継承に問題が生じてきそうです。
材料、運送費等の値上がりが続く中、単価アップがなかなか出来ない状況。利益確保が難しい。
短納期の注文が多く、断ると次回の注文が来ない可能性があるため、何とか残業等で対応しているが、利益が出ない状態である。
納期の関係から残業が増えても売上が増えず、加工高も増加しない。今後も業務の無駄を無くすよう努めていく。
新製品開発遅れによる不調、その改善により好転を期待している。
6月までの受注は順調であったが、7月以降は引合いが落ちている。先々については分からないが、大きく落ち込む要因は見当たらない為、再び上昇することに期待したい。
現在、客先からの受注物件、計画案件に対する希望納期が逼迫気味である。社を挙げて対応しているが、来年上半年まで、この状況は続く可能性がある。
当社主力の大型、超大型建設機械部品の受注は少しずつ増えてきてはいるが、黒字転換には未だ至っていない。
景気は右肩上がりと感じているが、人材が不足している。ただ、この景気が続くかは不透明。
混沌とした世界情勢や国内の政局不安により、国内外の貿易の支障や部材の原料が高騰する等の懸念材料が、益々増大してくると思われる。
5月に、ものづくり補助金により新機を導入したが、まだ上手く使いこなせない。人材のスキル向上が必要だが、高齢や経験が障害にもなっている。
3月から5月は本当に不調でした。今は多少仕事量は回復し、このまま良い方に向かえばと期待したい。
昨年より少しだけ上向きで受注は増えているが、各月だとバラつきが大きい。これから来年3月まで忙しいと思われるので、人手不足だが前向きに頑張りたい。
半導体系を中心に好調。建設関連も復調。次に繋げる断り方に苦慮している。
受注先が廃業、倒産して半分以下になりました。その為、他の業界の方へ受注活動をして頑張っていく。電気→精密(ディスプレイ、OA機器)→自動車、住宅へと変化している。
赤字体質の為、本格的に社内改革を実施し始め、経費が増えている。結果が出るまで会社の体力が不安。
一年前の同時期との比較で売上・利益ともかなり減少しています。7月から9月期は繁忙期のはずですが、例年と比べても盛り上がり欠ける状況で、今後の受注動向を注視しています。
国内での生産量が減少したまま固定化した感がある。先の見通しは不明であるが堅実な経営が重要だと考える。

<建設業>

人材募集を意図するも、応募はあるものの要求する給与水準が上昇している。
リフォーム関係の引合が減ってきている。
官公庁の物件が例年通りに確保出来ている。
見積り引き合いは増えているが、価格競争となり受注が難しい状況にある。
設備投資や改修工事等が昨年で山を越し、今年度は下降気味である。来春からは多少見えているが、間の空き過ぎが心配だ。
大工が不足している状況です。物件があっても仕事が取れない。
人が足りない、若い人が集まらない。人が居ればもっと売上が増加する。
9月中頃から仕事量は確保できそう。公共工事の受注が少ない。民間工事の引合が減っている。
工期が3か月より長いものも多いので、3か月ごとに区切った業績の判断は難しい。見積り金額で受注しても、完成引き渡し時に値引きを要求されることもある。特に個人がエンドユーザーの場合が顕著なので受注する際に躊躇せざるを得ない。
夏休み工事の受注で売り上げ増。官庁関係の仕事受注に目途が立たない…不安。

<卸売業>

お得意様の高齢化による廃業が増えてきました。得意先の確保が大変です。
懸案の人材がやっと揃いまして社員教育に力を入れています。来年以降の為に！。
ネット通販の類に対する策を検討し、一部実施している。
今が普通であり今後、多少の好・不調はあっても大きく変わるということは考えられない。今日を、しっかりやれば明日も来るだろうと…。
9月、10月頃より売上高が上がって来ると思います(年内にかけて)が、昨年度より鈍い感じの不況感が感じられます。
配送要員を募集しているが、電話も来ない。社員に負担がかかってきている。
当業界は夏が最閑散期であるが、昨年に比して単価減となっている。ただ、後の物件案件はあるので年末、年度末に期待。

調査回答企業からのコメント（一部）

<小売業>

ネット通販の拡大により母の日等のギフト商品の売上が著しく減少しており、回復するのは難しいと思われます。同業者の廃業が相次ぐ中、先行きは不透明です。
今後の業況判断は普通を選んではいませんが、厳しい商い環境なので先は全く読めないのが正直な所です。以前にも書いたかもしれませんが、最低賃金の増額が非常にきつい。東京と数円しか変わらないというのは納得出来ません。横浜、川崎はいいでしょうが、神奈川西部はレベルが違うと思います。県単位で括るのは無理があると思います。この声は届きますかね。
年金世代ではなく、現役世代を顧客ターゲットに切り替えるような、店作りにしていきたい。
地域店の顧客は高齢者が大部分。新しい物や人気商品に反応しない。見通し真っ暗。行動としては若い老人(60~70代)の確保に努力。
平日の商店街の人通りはガラガラ。夏場は暑くて百貨店等に流れる。なんとしても若者を呼び込みたい。
クレジットカードでのお客が増えつつあるので、カード会社に手数料を引かれ、更に現金化されるまでは15日間かかるので利益率は悪くなっている。
業績の良いのは大手、一部の企業ではないかと思われます。我々中小零細はどこを見ても良い話は聞けません。現況はそんな感じです。
SNSでの発信を心掛けている。習うより慣れよで、取り敢えずアップし続けてます。数は少ないが見たと言って来店につながりつつある。
昨年開店した店舗は、6ヶ月早く目標とする売上を順調に確保している。仕事の量が増加し、人手不足が心配です。
販売先を海外に重点を置いて拡大を図っている。国内での販売は低迷。その為、海外出張社員が2~3人いると、国内で雇用不足気味となるが、現在では雇用を広げる予定は無し。
路面店の小売業(物販)は、これからは成り立たぬと思う。Amazon、楽天等の通販の影響が大きい。値段は変わらないが、煽り商法にはかなわない。
平成27年4月より売上が減ったまま、その数字を維持することがやっとです。今年2月から新社長になって販売方法を変えても良いかもとの考えがあるので、少しでも売上アップができるのなら試してみようと思っているところです。ネット販売を考えています。
国内小売はネット通販の隆盛で次第にシェアを奪われていくでしょう。中小企業はニッチ分野で生き延びるしかないのでしょうか。

<飲食店>

利益を求めるのでは個人商店は、やっていけない時に来ている様な気がします。今までの恩返しのつもりで営業しています。幸い子供達も独立し年金もありますので、お客様と接していただけることがありがたいと思います。
まわりの商店がやめてしまい商店街存続の危機。会長さんも事業をやめてしまい暗雲たちこめている感じです。椅子席を増やして年配のお客さんの便利を図ったら好評です！。
洋食の個人店も少なくなりました。コーヒーや紅茶はコンビニ移行してます。
求人しても集まらず人手不足。その為、人件費等単価が上がり大変苦戦している。又、10月には最低賃金が上がるということで経営に圧迫する。
人手不足の為、人件費の高騰。待遇、募集費用等、今までの何倍もの経費がかかります。いい加減な経営ではやっていけない！。
季節要因で例年夏場は苦しい。秋以降は盛り返しを期待しているが、個人消費の落ち込み、特に単価下落が気がかりである。
常連のお客様や地元の方々の法事等で、とても助かっています。夏のシーズン少しづつ毎年お客様が減っている気はします。
大店舗の進出により、個人経営の先行きは暗い。相模原全般ダメな気がする。消費するマインドが(飲食)無いように感じる。

<サービス業>

好景気とは裏腹に、元請けの内製化で細々と食いつなぐ状況。
すべてにおいて不調のまま定着している現状です。
現在は売上の伸びで好調だが、人件費の値上げ、高齢化等の不安がある。
高齢化とネット販売により益々先細りであるが、今年位までは持ちそう。
仕事は増やせるが、人手が無い。募集しても人材が集まらない。特に若い人が。人が辞めた場合は仕事を減らすしかないと思う。
人材不足から企業間取引は少々上昇(大企業、中堅)、中小は厳しい。又、人材不足から採用コストが上昇している。
取引先が好調であった為、4月~6月は良かった。しかし今後は取引先が不調になる見通しである。
お客様が高齢化で車の使用がなくなり減少気味。若い方の車離れも気になります。
2020年オリンピックを見据えて民泊関連の仕事が増えている。
新築マンション・アパートの建設ラッシュに押されています。中古アパートの賃貸は低迷しています。